第173号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

酷暑の中で

暑い中で執筆中です。猛暑、高湿度の毎日で体力が奪われています。

かつて、春夏秋冬でどの季節が好きかと尋ねると、夏と答える人はたくさんいましたが、今、その質問をしたら、夏と答える人は少ないのではないでしょうか。今年は六月下旬から三十五度を超える暑さとなり、この暑さを十月くらいまでの三ケ月ほど我慢しなければいけないと思うと気が滅入ります。

しかし不思議なもので、大人は暑い暑いと愚痴を言いますが、子どもは愚痴を言わずに炎天下の中を楽しく走り回ったりしています。

私も子どもの頃は炎天下の中を走り回り、母親から帽子をかぶりなさいとよく注意されたものです。暑さも気にならないくらい遊びに集中していたのでしょう。いくら暑くても遊びたくて遊びたくてうずうずしていました。

それが大人になり、歳を重ねて気温と比例して愚痴しか出なくなりました。大人になると愚痴が増えるというのは、大人になると不満が増えるということです。暑さを不満に思っても絶対に解決しないのですが、また無駄に愚痴の夏をおくっています。

私たちを支える形のない「形」

田中 智教

以前、三回に亘って寄稿いたしました「釈迦弥陀二尊の和合」をお読みくださった読者の皆様に、阿弥陀如来を「阿弥陀様」と表現しすぎたことで一面的な理解を植え付けてしまったのではないかと思い今回の内容を書いてみたいと思い立ったわけです。それは、仏像という人間みたいな形のご本尊を安置することで、一人格としての阿弥陀如来を仰ぐということが当然あるわけですが、その阿弥陀如来は「光」や「智慧」という形のないものを形でもって私たちに知らせようと現れてくださったと説かれます。これを「方便法身」といいます。阿弥陀如来という形がないと、「光」「智慧」というはたらきに気づくことができない、気づいたとしてもすぐに忘れてしまう、そういう私たち人間のために現れてくださったのだということです。

そもそも、愛、希望、信頼、夢など、形はなくとも実感することによって私たちの生活を成立させている、なくてはならないものがあります。それを形に表そうと思っても難しいのですが、嘘でもいいから表現して実感させようという意味で「嘘も方便」という言葉が使われていますよね。しかし、方便法身という場合の「方便」は、「嘘も方便」として用いられる意味とは異なります。

法身は、いろもなし、かたちもましまさず。しかれば、こころもおよばれず。ことばもたえたり。この一

如よりかたちをあらわして、方便法身ともうす御すがたをしめして、法蔵比丘となのりたまいて、不可思議の大誓願をおこして、あらわれたまう御かたちをば、世親菩薩は、尽十方無碍光如来となづけたてまつりたまえり。(中略)しかれば、阿弥陀仏は、光明なり。光明は、智慧のかたちなりとしるべし。

(『真宗聖典』五五四頁)

法蔵菩薩（法蔵比丘 ※菩薩になる前の修行時代）が一切衆生を救う誓いを立てて阿弥陀仏となり、今現在

も阿弥陀如来として現前していることが嘘偽りの手段ではなく、この形がなければ人生を全うすることができない必要不可欠の真実のすがたと抑えることができるのではないでしょうか。その意味で、どんな人間にも共通してはたらく光が智慧の形である阿弥陀如来となって必然的に沸き起こってきた形とも言い換えることができますでしょうか。

形のないものが形となった。しかし、その形なくして形のないものを受け取ることはできません。だからこそ、目に映る外面的な形だけを見ていくだけではなく、形のない内面的なその意味にも眼を開いていくことが大切ではないかと思うのです。コロナの不安も軽減されてきました昨今、廣讃寺の行事も再開しつつあります。阿弥陀如来を中心とするお寺に集って、皆様とご一緒に教えを聞く機会を得たいと念じています。

花

釋 綽智

六月二十一日、ひさしぶりに二十組の暁天講座が東光寺さんで開かれました。なにせコロナ禍で二年間中止となっていたからか、早朝にもかかわらず本堂は満堂に近い状況でした。大扉は全開され、曇りの早朝でしたので少しだけ涼しさを感じました。講師も聴衆も皆がマスクをつけてコロナ対策をしていました。

定刻に導師ひとりで正信偈を声を出して勤めていました。しかしコロナ対策のため他の人は心の中で勤めましょう、ということで私も心読で勤めました。これは初めての経験でした。

講師は池田真師（いけだまこと）で略歴を紹介されていましたが、私は耳が遠いのでほとんど聞き取れなかったです。

法話の講題は『極楽浄土に生きる』で極楽や浄土の意味を浄土三部経の中にあることを話されました。極楽浄土は七宝や金銀などの宝石や、さまざまなきれいな花によって荘厳されています。ですからお仏壇に花を供えるのは浄土を荘厳することだと意味がよくわかりました。

そして「花が散り、葉になり、実となり、終わらぬいのち、我が身にかさね」という蓮如上人の花の偈を読まれて終了しました。

そして荘厳の花は清浄歓喜智慧光（しょうじょうかんぎちえこう）を私たちに照らしていると。

私の花に対する気持ちが変わった法話になりました。

行事予定

八月　十三日（土）　十時　お盆のお勤め

八月二十八日（日）　十時　親鸞聖人命日のお勤め

同朋会例会

※六月の同朋会の地区委員会打ち合わせで、今後の同朋会例会は毎月二十八日の午前十時から行うこととなりました。